

春日部共栄中学校

所在地 : 埼玉県春日部市
 生徒数 : 中学校…約323名

国語科 大川 勇一郎 様



言語能力育成の課題感と取り組み

- 国語科では4技能（話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと）の育成を重視。
- 言葉で相手に分かりやすく伝える力を身につけるため、ビブリオバトル、プレゼンテーション、新聞作成等を国語の授業時間に取り入れている。
- 近年の共通テストでは短い時間に多くの情報を処理する力が求められる。大学入試を見据え、精読とあわせて文章を素早く読解する力の育成が今後の課題として挙げられている。
- 自分自身の考えを論理的に表現するという経験がなく、「書くこと」に苦手意識のある生徒も少なくない。また、「書くこと」は教員にとって評価の手間がかかる領域である。
- 国語の現代文は学習したことがすぐには模試の成績等に結びつきにくく、生徒の学習意欲の向上に繋がりにくい。

検定の活用概要

【文章検】

- 対象学年・受検級
 全学年（全員対象）
 4級（1年生）、3級（2年生・3年生）
※2023年度は3年生での準2級受検も検討中
- 指導教材・指導概要
 「文章読解・作成能力検定」の過去問題
 夏期講座4コマで過去問題演習、解説

【漢検】

- 対象学年・目標級
 全学年（希望者対象）
 中学卒業までに準2級取得を推奨

※2022年度の実績

文章検の取り組み・効果

- 昨今の大学入試で求められる論理的な読解力・表現力の育成に向け「文章読解・作成能力検定」を導入。
- 文章検の指導においては意見文作成の設問に重点を置き、主に「書くこと」をトレーニングする機会としている。
- 検定受検により教員が生徒の文章作成能力を客観的に把握できる。また、生徒は検定結果資料のフィードバックから、自分の文章が他者からどのような観点で見られるのかを知ることができ、今後の学びに繋がられる。
- 文章検は学習したことが結果に反映されやすく、また合格という形で成果が可視化されるため、国語の学習意欲向上、苦手意識の軽減に繋がっている。
- 担任した2年生のクラスは受検者全員合格。学年全体の合格率も85%超となった。

漢検の取り組み・効果

- 社会生活や入試で求められる読解力、表現力の基盤としての漢字・語彙力を身につけるため、中学卒業時までの準2級取得を目標として設定。入学時から受検を推奨し、2022年度末の検定では全生徒約300人中200人が受検。
- 検定合格という目標が日々の漢字学習の動機付けにもなっている。また、合格という形で学習の成果を可視化できる。
- 漢字学習への興味づけとして、国語の授業や入学希望の小学生に向けた体験授業の中で「リアル脱出ゲーム×漢検 不思議な漢字洞窟からの脱出」（弊協会無償教材）を活用。楽しみながら漢字の知識を深められる機会としている。 ※2023年3月の取材内容に基づきます。